

2023年度（第48回）学術研究振興資金 学術研究報告

学 校 名	天 理 大 学	研究所名等	
研 究 課 題	東地中海地域における鉄器時代の始まりと地域社会の変容 ―イスラエル、テル・レヘシュの調査を軸とした考古学的研究―	研 究 分 野	文 学
キ ー ワ ー ド	①東地中海、②イスラエル、③考古学、④都市、⑤青銅器時代、⑥鉄器時代、⑦国際関係、⑧テル・レヘシュ		

○研究代表者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
クワバラヒサオ 桑 原 久 男	天 理 大 学 文 学 部	教 授	研究総括 都市遺跡の比較研究

○研究分担者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
ハシモトヒデマサ 橋 本 英 将	天 理 大 学 文 学 部	教 授	後期青銅器時代における金属器生産の研究
オダギハルタロウ 小 田 木 治 太 郎	天 理 大 学 文 学 部	教 授	ユーラシア金属器文化の比較研究
ハセガワシュウイチ 長 谷 川 修 一	立 教 大 学 文 学 部	教 授	考古学研究結果を踏まえた旧約聖書形成研究
オノヅカタクゾウ 小 野 塚 拓 造	東京国立博物館学術研究部	主任 研究 員	土器からみた地域間交流の研究
ツモトヒデトシ 津 本 英 利	古代オリエント博物館研究部	研 究 部 長	古代西アジア金属文化の研究
カンシャヒロオ 間 舎 裕 生	立 教 大 学 文 学 部	リサーチアシ ス タ ン ト	後期青銅器時代～鉄器時代の都市遺跡の比較研究
マスブチマリヤ 増 渕 麻 里 耶	京都芸術大学芸術学部	准 教 授	金属製品の考古理化学的研究

東地中海地域における鉄器時代の始まりと地域社会の変容 ーイスラエル、テル・レヘシュの調査を軸とした考古学的研究ー

1. 研究の目的

- (1) テル・レヘシュにおける発掘調査の推進
 - ① テル・レヘシュの「下の町」の発掘調査を通して、考古学的なデータから、青銅器・鉄器時代移行期についてどのような社会状況を読み取れるのかを探ること。
 - ② 土器や金属器など外来系遺物の分析を通して、後期青銅器時代のテル・レヘシュが地中海世界の国際ネットワークにどのように組み込まれていたのかを探ること。
- (2) 青銅器・鉄器時代移行期の社会変容
 - ① 青銅器・鉄器時代移行期における国際的環境の激変に、テル・レヘシュを含む南レヴァントの地域社会がどのように対応したのか、その実態を探ること。
 - ② 当該期の文化を担った集団のアイデンティティに対する理解を深めること。
 - ③ 青銅器から鉄器への移行という人類史上の大きな変化を、南レヴァントにおける「移行期」の社会状況の中に位置づけ直すこと。

2. 研究の計画

- (1) 東地中海地域の諸遺跡における青銅器時代・鉄器時代の様相に関する比較検討
 - ① 研究論文・発掘調査報告書などを通して、各地域の遺跡の様相を把握する。
 - ② ASORなどの学会に参加し、情報収集を進める。
- (2) 現地調査の実施
 - ① 現地協力者のイツハク・パズ博士と連携しながら、現地調査の準備を進める。
 - ② 現地調査を実施し、青銅器・鉄器時代移行期のテル・レヘシュの様相の把握を行う。
 - ③ 当該期のセトルメントシステムを把握するため、関連遺跡の踏査を行う
- (3) 調査成果の検討と報告
 - ① テル・レヘシュの調査成果の検討を行い、データの情報化を進める。
 - ② テル・レヘシュ出土資料の比較検討を行い、歴史的な理解を深める。
 - ③ 日本西アジア考古学会において調査研究成果の報告を行う。

3. 研究の成果

- (1) 東地中海地域の諸遺跡における青銅器時代・鉄器時代の様相に関する比較検討
 - ① 年間を通して、研究論文、発掘調査報告書の検討をオンライン・ツールを利用しながら進め、イスラエルとその周辺地域の遺跡について、青銅器時代・鉄器時代の様相を把握、比較検討する取り組みを進めた。
 - ② 5月に開催された ICAANE（国際近東考古学会議）に研究分担者が参加し、最新の研究成果の摂取に努めた。
- (2) テル・レヘシュ遺跡発掘調査の準備と実施
 - ① 2019年以来4年ぶりとなるテル・レヘシュの発掘調査（第13次）を8月に実施するため、研究代表者の桑原を団長とする発掘調査団を組織し、研究分担者、現地協力者のイツハク・パズ博士（イスラエル考古局）と連携しながら、発掘調査ライセンスの申請、宿舎やその他のロジステック等の準備を進め、体制を整えた。
 - ② 円安、諸経費の高騰に苦慮しながらも、8月に約1ヶ月間、現地に渡航し、テル・レヘシュの発掘調査（第13次）を実施し、「下の町」の調査区では、初期鉄器時代の建築遺構の様相の一端を明らかにすることができた。
- (3) 発掘調査の事後作業と調査成果の検討
 - ① 日誌や図面・写真などの調査記録は調査終了後、直ちにイスラエル考古局に提出した。
 - ② 秋以降は、研究チームのメンバーが緊密に連絡を取りつつ、テル・レヘシュ遺跡の発掘調査の事後作業、調査記録の検討や分析を進めた。

(4) 調査成果の報告

- ①テル・レヘシュ発掘調査成果については、イスラエル考古局の発掘調査概報集 (Hadashot Archeolgiyot) に出版するため、概要報告の原稿を提出した。
- ②イスラエル考古学研究会、西アジア考古学会において、調査成果について発表を行った。

4. 研究の反省・考察

(1) オンラインツールを活用した研究の推進

Covid-19による制限時の経験を生かし、報告書の作成作業や専門書の読書会、その他の情報交換などをオンラインの各種ツールを利用しながら日常的に進める新たな研究スタイルが定着し、現地スタッフともメールに加えて、Zoomで普通にコミュニケーションができるようになったことは重要である。

(2) テル・レヘシュの発掘調査

- ①まず何よりも、Covid-19 のパンデミックによる渡航制限が撤廃され、現地調査を再開できたこと自体が重要な成果であった。
- ②注目されるのは取瓶、ふいごの羽口といった鑄造関連遺物が出土したことであった。補年研究のテーマに関連する大変重要な成果であり、今後の詳細な調査が期待される。
- ③後期青銅器時代における防御施設 (城壁) の有無を確認するために調査範囲を斜面方向に細長く拡大し、発掘調査を実施する予定であったが、諸制約から次年度以降に延期となった。
- ④地表面の観察により、発掘調査区の南方約 50m の地点にモニュメンタルな建造物の可能性があるウォールの石列が存在することが明らかとなり、同様に、次年度以降の調査課題とすることになった。

(3) 調査経費の高騰とCovid-19

- ①燃料費の高騰に伴う航空運賃の上昇、現地の物価上昇、急速な円安といった要因から、現地調査を実施するための実質的な経費がCovid-19以前の1.5倍ほどに増加したことは、研究遂行にあたって大きな痛手であった。少なくとも円安要因が改善されることが望まれる。
- ②現地調査に際しては、十分な注意を払っていたものの、渡航メンバーにCovid-19の感染者が発生し、一時は調査の遂行が危ぶまれたが、なんとか持ちこたえ、予定通りに現地調査を遂行することができたのは幸いであった。

(4) 現地の情勢と交流再開の必要性

- ①2023年9月はじめに現地から帰国し、1ヶ月が過ぎた10月7日、ガザ地区を実効支配するハマスがイスラエル南部のキブツ・ベエリを襲撃し、多数の住民を人質に取る事件が発生した。これに対して、イスラエル軍がパレスチナ自治区ガザ地区で大規模な地上作戦を現在に至るまで続けている。停戦が実現して現地の情勢が回復することを願うばかりである。
- ②本研究による日本隊のテル・レヘシュ調査プロジェクトは、文化的な交流という側面があり、日本人・イスラエル人の研究者や協力者のほか、近くに所在するアラブの村の人々の協力が得られている。現地の情勢については思うところが多々あるが、これまで培ってきた地道な文化的交流が今後も継続することの重要性を最後に記しておきたい。

5. 研究発表

(1) 学会誌等

- ①Hasegawa Shuichi, Kuwabara Hisao and Paz, Yitzhak. 'Tel Rekhes- 2019: Preliminary report, *Israel Antiquities Authority "Hadashot Arkheologiyot :Excavations and Surveys in Israel 135, 2023*
- ②桑原久男・間舎裕生・橋本英将・山野貴彦「初期鉄器時代とローマ時代のテル・レヘシュ—イスラエル、テル・レヘシュ第13次発掘調査 (2023年) —」『第31回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、2024年
- ③津本英利「収蔵品紹介：銅剣とその再現品」古代オリエント博物館情報誌『ORIENTE』66号、2023年

- ④津本英利「西アジア考古学事情ーシリア、トルコを中心にー」『月刊 考古学ジャーナル』792号、2023年

(2) 口頭発表

- ①橋本英将「テル・レヘシュ2023年度発掘調査報告」、第30回イスラエル考古学研究会、立教大学、2023年12月23日
②津本英利「カマン・カレホックⅡa層出土（2004年度調査）の鉄製短剣について」第30回トルコ調査研究会、東京国立博物館、2024年3月4日

(3) 出版物

- ①Hidemasa Hashimoto, Hisao Kuwabara, Takuzo Onozuka and Shuichi Hasegawa,
Excavating at the Lower Shelf of Tel Rekhes. *Nicolò Marchetti et al. (eds.),
Proceedings of the 12th International Congress on the Archaeology of the Ancient
Near East, Volume 2, 2023*
②津本英利『ヒッタイト帝国 「鉄の王国」の実像』PHP新書、2023年